

都市再生整備計画(第10回変更)

とくしまえきなんぼくちく
徳島駅南北地区

とくしま とくしまし
徳島県 徳島市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	徳島県	市町村名	徳島市	地区名	徳島駅南北地区	面積	261 ha
計画期間	平成	17	年度	～	平成	21	年度
交付期間	平成	17	年度	～	平成	21	年度

目標

- 中心市街地の活性化(中心軸の形成・観光都市にふさわしい「街の顔」の創生による賑わいの再生)
- 目標1 徳島駅南北の中心軸を創造することにより、中心市街地へのアクセスの利便性及び文教地区への通学生等の安全性、快適性の向上を図る。
 - 目標2 「阿波おどり」にふさわしい「街の顔」を創造するため、シンボルロードを整備し、合わせて観光ガイドボランティアの活用により観光客の増加を図る。
 - 目標3 公園を再整備し、憩いと交流の空間を創生し、中心市街地の活気と賑わいの再生を図る。
 - 目標4 街路・市道・下水道の整備改善により来街者・通勤通学者の交通安全性、歩行者の快適性の向上を図ると共に良好な住宅地の形成を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

計画区域のうち、JR徳島駅南側はデパート・商店・問屋・金融機関等、商業施設が集積し、県都としての中心市街地を形成しており、8月には全国的にも有名な阿波おどりの乱舞が街をあげて繰り広げられ、全国から大勢の観光客が訪れている。一方、北側地区は駅背後地の城址中央公園を挟んで小中学校等教育施設や文学書道館を含む比較的良好な住宅地を形成している。

南側の中心市街地商店街では、モータリゼーションや郊外型大型店の新規出店による来街者数の減少・事業者の高齢化と後継者不足などにより、中心商店街の空き店舗数が依然として増加傾向にあり、かつての県都の中心地として繁栄した街の魅力が薄れつつある。

一方、徳島駅北側地区は、JR線及び河川で南側地区と分断された形となっており、それぞれの特色を生かした一体となったまちづくりが遅れている。特に、駅北側に隣接する城址・中央公園の利用者にとっては大きな障害となっている。

こうした現状を受けて、平成10年度に「都市計画マスタープラン」及び「中心市街地活性化基本計画」を策定、平成13年度に「第3次徳島市総合計画・後期基本計画」を策定し、徳島駅周辺高架事業及び駅北口駅前広場・北口アクセス道路・南口駅前広場等の整備・再整備も視野に入れながら、徳島駅を中心とした南北軸を中心に両地区の特色を生かしつつ、一体的な魅力あるまちづくりのための総合的な事業展開を図っていく。

課題

都心においては、JR徳島駅前の広域交通機能の強化や阿波おどり会館の建設が図られたが、夜間人口の減少や商業機能の郊外部での展開により、県内最大の商業集積地としての活力低下がみられる。

阿波おどりは全国に誇ることのできる最大の観光資源であるとともに伝統芸能であるが、期間はお盆の4日間ではない。徳島を訪れる観光客ほとんどは、阿波おどりのイメージによって引きつけられており、観光の受け皿として、通年を通してその雰囲気が醸し出されるようなまちづくりが求められている。一方、眉山や新町川を中心とする親水公園、阿波おどり会館、徳島城博物館といった魅力ある観光地に触れずして立ち去るといった状況にあるため、観光ガイドボランティアによる的確な観光案内を幅広く行うことで、来街者をもてなす市民意識を高め、徳島の観光イメージアップにより観光客の増加に繋げるとともに、見過ごされていた観光地としての良さを広くアピールし、街の賑わいの再生を図る必要がある。

都市機能と魅力を高め、市民や来訪者の利便性・快適性を向上させるとともに、本市の都市づくりを先導するために、さまざまな都心機能の充実・強化を図ることが求められている。

将来ビジョン(中長期)

『第4次徳島市総合計画』では、中心市街地及び周辺ゾーンは、商業や業務、交通などのさまざまな都市機能の集積と本市の魅力である豊かな自然を生かし、市民・事業者・行政がそれぞれの役割を果たしながら、にぎわいにあふれ、魅力ある中心市街地を形成することを目標としている。また、土地の高度利用や街なか居住を促進するとともに、鉄道の連続立体交差事業等を促進するなど、効率的な都市機能拠点の形成をより一層進めることとしている。さらに、新町川や助任川周辺の美しい水辺空間の形成、幹線道路及びJR徳島駅周辺の街並みの景観誘導や緑化など、地域全体に潤いと安らぎを感じることのできる豊かな環境を創出することとしている。

都市計画マスタープランにおいては、中心市街地活性化対象区域において、道路、公園等の再整備や商店街の商業活動の活性化を支援するほか、都心居住や公共的機能等を含めた新たな再開発を促進するなど、総合的な活性化を進めるとされている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
中心商店街への来街者数	人/日	中心商店街通行量調査による平日街来者数の推計値	中心商店街を訪れる人の増加により、街に活気と賑わいが再生される。	14,500 (17地点)	平成14年度	15,000 (17地点)	平成21年度
中心商店街への来街者数	人/日	中心商店街通行量調査による休日街来者数の推計値	中心商店街を訪れる人の増加により、街に活気と賑わいが再生される。	18,373 (17地点)	平成14年度	19,200 (17地点)	平成21年度
阿波おどり会館入場者数	人/年	阿波おどり会館への入場者数	最大の観光資源である阿波おどりをPRすることにより年間を通じての観光客増加の指標とする。	544,770	平成15年度	572,000	平成21年度
眉山ロープウェイ利用者数	人/年	眉山ロープウェイを利用した人数	眉山へのもっとも身近な登山口であるロープウェイ利用者の増加数を指標とする。	98,518	平成16年度	108,400	平成21年度
空き店舗	件	中心市街地の空き店舗数	徳島市中心市街地の賑わいを再生するため、商店街の空き店舗を解消する。	47	平成17年度	40	平成21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(都市中心軸の形成)</p> <p>・徳島駅北側地区で、駅背後地の城址中央公園と一体となった特色ある良好な文教地区及び住居地区を確保すると共に、中心市街地へのアクセスの利便性及び通学者等の安全性、快適性を確保するため、街路・下水道・市道の整備を行う。</p>	<p>■シンボルロード整備 (基幹事業・高質空間形成施設) ■街路事業 (基幹事業・道路〔街路〕) ■市道徳島・助任橋線 (基幹事業・道路) □下水道事業 (提案事業・地域創造支援事業)</p>
<p>整備方針2(中心市街地の活気と賑わいの再生)</p> <p>・徳島駅前から阿波おどり会館(眉山の麓)までの通りは「阿波おどりロード」と位置づけられており、阿波おどりに加え、LED先進地徳島のイメージを確立するため、LEDを活用した照明施設、モニュメントの整備を行う。</p> <p>・観光都市のイメージを高め来街者数の増加を図るため、観光ガイドボランティアを募集・養成する。</p> <p>・まちづくり協会のまちづくり計画活動や商店街の空き店舗の活用、また、各種イベントの開催等を支援することにより中心市街地の再生・活性化の新たな方策を検討する。また、徳島の大きな観光資源の一つである「阿波おどり」の更なる魅力向上のために各種の実験的施策を行うとともに、阿波おどりシーズン以外にも年間を通じた観光需要の掘り起こしのため、新たな魅力づくりを目指す。</p> <p>・徳島の玄関口に位置する公共施設等の修景により、観光都市にふさわしい都市景観を創出する。</p>	<p>■道路(阿波踊りシンボルロード周辺外) (基幹事業・高質空間形成施設) □観光ガイドボランティア事業 (提案事業・地域創造支援事業) □まちづくり協議会支援事業 (提案事業・まちづくり活動推進事業) □パラスルショップ等活性化事業 (提案事業・地域創造支援事業) □商店街マネージメント活動推進事業 (提案事業・地域創造支援事業) □中心商店街通行量調査事業 (提案事業・まちづくり活動推進事業) □観光客誘致対策イベント事業(ひょうたん島PR船運航) (提案事業・地域創造支援事業) □商店街ほっとスペース事業 (提案事業・地域創造支援事業) ○交通社会実験 (関連事業/国・県・市) □とくしま観光魅力づくり事業 (提案事業・地域創造支援事業) □阿波踊り観光客誘致対策事業 (提案事業・地域創造支援事業) □映画ロケ誘致支援対策事業 (提案事業・地域創造支援事業) □徳島市農林水産展事業 (提案事業・地域創造支援事業) □徳島市庁舎改修工事 (提案事業・地域創造支援事業) ■藍場町歩道橋修景工事 (基幹事業・高質空間形成施設) □観光船運航事業 (提案事業・地域創造支援事業) □ひょうたん島PR船乗降場整備 (提案事業・地域創造支援事業)</p>
<p>整備方針3(憩いと交流の空間の創生)</p> <p>・新町川水際公園およびその周辺の景観整備を行うことにより、「心おどる水都・とくしま」を目指す。</p> <p>・市街地再開発計画区域に隣接する公園を再整備することにより再開発ビルへの動線を確保するとともに憩いと交流の空間を創生する。</p>	<p>■新町川水際公園等改良工事 (基幹事業・高質空間形成施設) ○新町西地区市街地再開発事業 (関連事業/都市再生機構) □徳島市立文化センター改修工事 (提案事業・地域創造支援事業)</p>
<p>整備方針4(交通環境の改善)</p> <p>・住居・文教地区内の通勤・通学者や文学書道館来館者の歩行環境改善・安心のあるまちづくりのため、街路の整備、コミュニティ道路、下水道の整備を行う。</p> <p>・駅などの旅客施設やその周辺における歩道等のバリアフリー化など、人にやさしいまちづくりを推進する。</p>	<p>■街路事業 (基幹事業・道路〔街路〕) ■コミュニティ道路 (基幹事業・高質空間形成施設) □下水道 (提案事業・地域創造支援事業) ■寺島国道跨道橋 (基幹事業・道路) ■市道中洲・徳島線 (基幹事業・道路) ■徳島駅前広場整備事業 (基幹事業・高質空間形成施設) ■市道寺島東鉄道添線(特定経路) (基幹事業・道路) ■市道市役所前通り線(特定経路) (基幹事業・道路) ■市道徳島駅西須賀線(特定経路) (基幹事業・高質空間形成施設) ■徳島駅前広場バリアフリー整備事業 (基幹事業・高質空間形成施設) ○徳島駅前広場バリアフリー整備事業 (関連事業)</p>

その他

- シンボルロード周辺の商店街や企業を交えての阿波おどりロード委員会などの、常にロードに関連した取り決めなどを行えるような一体となった組織を設置するとともに、阿波おどり勉強会など研修会を実施して観光客に対しても適切な案内のできる人材づくりを行う。
- 観光客誘致はいかにその魅力をPRするかが大切であり、市民主体の観光ガイドボランティア活動を通じて蓄積されるノウハウを活かし、徳島ならではのソフトづくりにより観光都市の活性化を図る必要がある。
- 本市の観光客のほとんどが春・夏場に集中していることから、市内中心部やその周辺の観光資源を活用し観光シーズンである秋の観光魅力を高めるため、本年度より、とくしま観光魅力事業を実施する。同事業により、「とくしま観光テント村」、「眉山・新町川体験ツアー」等、観光客が気楽に参加できる体験型イベント(藍染・大谷焼体験・ひょうたん島クルーズ等)を開催し、参加・滞在型の観光都市を目指すものである。
- 交通バリアフリー法に基づき、駅など旅客施設とその周辺(重点整備地区)において、バリアフリー化の重点的・一体的な推進を図る基本策定に向けて徳島駅周辺のバリアフリー化の調査やまちづくりの方向性を検討中であり、平成17年度中に実施計画認可、18年度より着工の予定であり、整備計画との連携・調整を図りつつ事業を実施する。
- 【徳島市中心地区における歩行者空間の整備】を図るため、徳島駅と阿波おどり会館を結ぶシンボルロードにおいて2地点間を楽しく快適に移動するために、自動車交通をできるだけ排除する道路空間の再配分を目的とする社会実験を平成16年度に実施中であり、整備計画との連携・調整を図りつつ事業を実施する。
- 徳島城址(中央公園)は、現在市指定の文化財であるが、平成17年度には国指定になり、まちづくりとしては、歴史・緑・水が一体となった21世紀にふさわしい徳島の顔づくりを目指す。
- 鉄道高架事業に伴う徳島駅南北地区の中心軸を形成する中央公園内園路及び助任川を跨ぐ橋りょう(南北道路)については、ワークショップによる市民の意見・要望を踏まえ、「徳島市中心市街地都市整備懇談会」の議論の中で、車道から自転車・歩行者道で整備するという方向性が出ている。
- 連続立体交差化に対しては、知事・市長の間で基本合意し、平成18年度着工準備採択された。

徳島駅南北地区(徳島県徳島市)	面積 261 ha	区域 新町地区の一部、内町地区の一部、渭北地区の一部、西大工町、寺町、眉山町
-----------------	--------------	---



徳島市区域界	A = 19,139 ha
地区名	徳島駅南北地区
都市再生整備計画区域	A = 261 ha

徳島駅南北地区(徳島県徳島市) 整備方針概要図

目標	中心市街地の活性化 (新しい中心軸の形成・観光都市にふさわしい「街の顔」の創生による賑わいの再生)	代表的な指標	中心商店街への平日来街者 (人/日)	14,500 (H14年度) → 15,000 (H21年度)
			中心商店街への休日来街者 (人/日)	18,373 (H14年度) → 19,200 (H21年度)
			阿波おどり会館入場者数 (人/年)	544,770 (H15年度) → 572,000 (H21年度)
			眉山ロープウェイ利用者数 (人/年)	98,518 (H16年度) → 108,400 (H21年度)
			空き店舗数 (件)	47 (H17年度) → 40 (H21年度)

